

## ごみゼロネット推進会（第 11 回）議事録

開催日： 2009 年（H21 年）6 月 4 日（木）19:00 ～ 21:30

場 所： 公民館本町分館

出席者： 平林、加藤、市原、杉本、大橋、伊藤、桐生（作成）

議 題：

### 1. 「平成 21 年度東京都地球温暖化対策等推進のための区市町村補助金」申請についての討議

今回は各人のごみ問題に係わる関心領域の違いがまともに表に出て、議論が纏まらなかった。今後、この会を続けて行く上でお互いの立場を理解し合うためにも必要と考え、以下に各人の主張を要約する。実際の議論は甲論乙駁状態で交錯しており、順を追って書くと返って判らなくなるので、論旨を整理して書かせていただいた。

市原：

- 申請の対象は「低圧高速発酵の実証試験」であると思っていた。「炭素化」に絞ることに全員が納得できるか。
- 小金井市はごみの堆肥化の実績を積んできている。その延長線上の提案なら受け入れられると思う。
- 「生ごみ」を「低圧高速発酵」で減容すれば「焼却炉」に持って行く残渣が減るので「地球温暖化ガスの削減」になり、補助金の主旨に合致するのでなかろうか。
- 申請書にも国分寺との関係が微妙になっていることへの配慮が欠かせない。

加藤：

- 小金井市に求められているのは「ごみ減量」である。市民も議員も「ごみ減量」に関心が集まっているのでそれと違う「炭素化」の話を出しても相手にしてくれない。
- 市長そのものが「焼却炉」だと断言しているので、この提案を受け入れない。また、議会の会期中（6/4～6/24）には時間的に申請書を討議できそうもないが、その後に市長の一存で通すことはできそうにない。仮に都が「これは良い」と言ってくれても、小金井市が出さないものを都が出せと言うはずがない。
- 「減容済みごみ」として堆肥化実験工場の堆肥を使用する計画だが、実証試験でそれを持って行くと、毎日 30 ～ 50 人堆肥を貰いに来ている市民への供給がストップして、市民が騒ぎ出すであろう。市のごみ対策課の一存でできる話ではない。
- 有機物の種類によって炭素量も15 種類くらい知られており、申請書の炭素量もどれを使ったか出典をはっきりしないと、そこを必ず問われる。
- 自分は「生ごみ」は「亜臨界水処理」、「その他ごみ」には「炭素化」がよいと考えている。
- この申請書は自分が一貫して言ってきたことと異なるから、会として提案することには反対する。

大橋：

- 化学的には「炭化」と「炭素化」は同じだと思う。炭素に関しては世に膨大な学術文献がある。実証試験では、何故今頃、こんなことを調べるのかと思われる項が多数有る。また、炭化、炭素化を既に取り入れている自治体が幾つもある。それらは既に解決している問題なので、ここで補助金を使って同じことをやるのは税金の無駄遣いではなかろうか。
- 「低圧高速発酵」を申請の対象にする方がまだ新しい感じがする。
- 炭素化で日量100トンの負荷に耐えられるか、検討が必要と思う。

伊藤：

- 実証試験で「生ごみ」と「その他ごみ」を分けて持って行くなら、この機会に「生ごみ分別回収」を特定地域でやるようにできないか。
- このような問題は市民が動かないと行政も動かない。

杉本：

- 自分は炭素化と炭化は違うものだと考えている。
- 都は CO<sub>2</sub> 削減、小金井市はごみの減量と焦点の置き所が違っている。折角、補助金が出るチャンスというなら、見逃すのは惜しい。このまま、申請してはどうか。

平林：

- 今回の補助金の主旨は「地球温暖化ガス対策」に絞られており、都の関心も、このプロジェクトを実行すれば何ト CO<sub>2</sub> が削減できるかに焦点を絞っている。それにマッチしない提案は今回は受け入れられない。
- 都に上がってきている申請にはずばり何ト減らすといったパンチの効いた案件が少なくて困っていると聞くその点、この申請書は都全体でやれば130万ト CO<sub>2</sub> が減るといふ都の期待に適った提案になっている。
- 自分は新方式を市民の目で見えて貰うのが最善の提案だと思っている。何とかジェイマックスの実証試験装置を小金井市に持ってきて、生ごみを処理するところを見て貰いたい。（生ごみの処理をやるのは極めて困難と反論あり）それを申請書に入れられないものかと考えている。
- もし、この申請書が都に採択されれば、第三者がこの方式の価値を認めてくれたことになる。

桐生：

- 補助金が認許されてからの作業可能な時間は報告書の作成まで入れて、3ヶ月間と考えて欲しい。その時間内に完結する案件しか実行できない。
- 生ごみを発酵処理してから焼却炉へ入れても、生ごみを直接焼却炉に入れても、生ごみの有機物から発生する CO<sub>2</sub> の量は変わらない。（焼却炉では燃料を使うので、減容すればトータ CO<sub>2</sub> は減るとの反論有り。渋谷清掃工場は着火時以外ではごみが自燃すると答えたが、それは騙されていると再反論された！）
- 補助金が採択されたら、試験項目で変えた方が良いところは皆と相談して調整したい。

## 2. 「平成 21 年度東京都地球温暖化対策等推進のための区市町村補助金交付申請書」の取り扱い

結局、時間切れとなり、全員一致でこの申請書を提出するとの合意には到らなかった。

補助金募集の存在と、小金井市が募集に応じないことを知ったのが5月中旬で、既にヒヤリングが始まっていたこのため申請書の作成を急ぎ、書き上がったのが5/28 と切羽詰まっていたため、6/1 に開催された例会では対応が決められず、急遽、本日の会合となったが、周知不足で纏まらなかった。

会の名前が使えないので、当面は個人の責任で作業を進める。進展があれば会のMLで逐次連絡する。

以

上

次回打合せ 日時：7月6日（月）10：00～12：00 / 場所：ウエスト



